



内山美穂子 議員
(拓政会)



共働きや一人親世帯が急増する中、国の「子ども・子育て支援新制度」がスタートして1年以上が経過した。新制度では学童保育を市町村事業として位置付け、運営指針を定めた。新たに指導員の資格制度なども明記し、質的な拡充なども図っている。

町も新制度を受け昨年3月、「幕別町子ども・子育て支援事業計画」を策定。学童の対象を小学6年生まで広げ、子供の預かりや送迎などを地域会員が担う「ファミリーサポート制度」の開始など支援の充実に取り組んでいる。

- 学童保育については、今後も地域の中で重要な役割を担っていくと考えるが、以下について伺う。
- (1) 待機児童の現状と見通しは。
 - (2) 施設設備の整備計画は。
 - (3) 学校と学童の連携について。
 - (4) 地域との交流や、高学年向けの新たな取組は。
 - (5) 特別な支援を必要とする児童への対応は。
 - (6) 放課後児童支援員の現状や研修

問 今後の学童保育のあり方は

答 高学年を含む幅広い学年に対応した新たな取組を実施したい

計画について。

町長(1) 一部の学童保育所では、入所希望者が定員を超えているが、国の基準を遵守した上で、可能な限り児童を受け入れしており、待機児童は発生していない。

来年度の入所希望者の推計では若干の増加が見込まれるが、待機児童を発生させないために、児童を最大限に受け入れたいと考えており、場合により併設施設など有効活用することも視野に入れ、保育環境の充実に努めていきたい。

(2) 一部の施設では、いまだ和式トイレであることや、老朽化が進んでいる学童保育所もあるので、児童の安全面や衛生面を第一に考えながら、計画的かつ効率的な改修を検討していきたい。

(3) 在籍児童の学級通信の提供など、支援員と教職員との情報交換を行うなど、連携を強めている。

また、運動会などを支援員が自主的に見学するなど、児童の学校内における活動について把握する

よう努めている。

(4) 地域との交流は、紙芝居の上演や昔遊び体験など、地域の団体やサークルの協力を得ながら実施している。

高学年向けの取組については、遊びに限らず生活面において発生する問題解決の場面において、その答えを導くまでの過程について支援員と一緒に考えを深めていくような支援をしたり、昔の生活様式を教えていくことなど、新たな取組を実施したい。



はぐるま学童保育所(幕別南コミセン内)
おやつの時間の様子

(5) 学校行事の時期や長期休業中など、必要に応じて支援員を配置しており、学校や保護者との連携を密にし、情報を共有しながら児童の状況把握に努めている。

(6) 支援員の配置については、国の基準どおり入所児童数40人を基準として2人配置し、支援を必要とする児童の状況によっては、必要に応じて支援員を増員している。

研修計画については、毎年、北海道開催の家庭教育支援などをテーマとした研修会に参加しているほか、町独自の研修として、支援員会議を年3回開催しており、各学童保育所における問題点などについて、支援員同士が情報交換しながら互いの資質を高めている。

再質問 子どもの最善の利益を考慮して、学校などと連携していくことが大切と考えるが、新一年生の情報については指導員が共通理解をして対応できるような仕組み作りが必要ではないか。

答 学童保育に入る場合は入所申し込み時点で、何か配慮しなければならぬ点があるかを把握しながら行っているが、必要な情報を共有し、子供たちに最も良い環境で対応できるように情報交換の方法を整備して進めていきたい。